

まちのわだい

Town Topics

息の合ったチームワークを発揮

第64回茨城県消防ポンプ操法競技大会 県西地区大会

消防団の消防技術の向上と士気高揚を図る「第64回茨城県消防ポンプ操法競技大会県西地区大会」が10月20日、古河市中央運動公園で開催され、10チーム60名の選手が競技に臨みました。

今大会は過去にない大雨と強風が吹く中での競技となりましたが、下妻市からは第4分団が出場し、今年5月から約5か月間の厳しい訓練の成果を存分に発揮しました。一番員を務めた高山洋之さんは「無我夢中でしたが、団員が一致団結してやりきれた」と充実感に満ちた笑顔でした。



大雨強風の中で競技に臨む選手たち



息の合ったチームワークで放水活動



防犯宣言をする都井生徒会長

みんなでつくろう安心の街

全国地域安全運動キャンペーン

犯罪が起きにくい社会づくりを推進しようと「全国地域安全運動キャンペーン」が10月15日、イオンモール下妻店で開催され、下妻警察署や防犯ボランティア団体など約100名が参加しました。

キャンペーンでは、千代川中学校3年生で生徒会長を務める都井望美さんが「自転車やオートバイが盗まれないよう『二重ロック』を家族や地域の方々に呼びかけます。外出する時や寝る前には忘れず鍵かけをしましょう」などと防犯宣言を行った後、参加者全員で啓発品を配布し、防犯意識の大切さや安全・安心なまちづくりを呼びかけました。



空き缶などたくさんのごみが回収されました

感謝の気持ちでまちをきれいに

シルバー人材センターが清掃ボランティア

小雨が降る9月25日の朝、下妻市シルバー人材センターの会員22名により、県道大貝下川原線で清掃ボランティア活動が行われました。

シルバー人材センターは、豊富な経験・知識・技能を持った高齢者が働くことを通じて生きがいを得るとともに、地域社会の活性化に貢献する組織です。

センター内でボランティア委員長を務める霜昭さんは「毎年2回、地域への奉仕活動をしています。日頃から市民の方々に利用していただいている感謝の気持ちです。これからも市民に愛されるシルバー人材センターでありたい」と話してくれました。

交通安全の理解と関心を高める

第42回交通安全ポスターコンクール表彰式

10月11日、市民一人ひとりに交通安全の理解と関心を高めるため、市内小学生に募集した「第42回交通安全ポスターコンクール」の表彰式が、交通安全母の会下妻支部の主催により、千代川公民館で開催されました。

今年度は、市内各小学校から610点もの応募があり、厳正な審査により80名が受賞となりました。

下妻警察署長賞を受賞し、受賞者代表お礼のことばを述べた大形小学校6年生の中山沙菜さんは「みんなの手本となるよう交通ルールをきちんと守って登下校し、交通事故にあわないようにします」と力強く語りました。



賞状と記念品を受け取る受賞者たち

引き継がれる七百年の歴史

小野子千手観音坐像開基七百年祭

10月13日、鎌倉期彫刻として評価される茨城県指定文化財の小野子千手観音坐像が、鎌倉時代後期から七百年を迎えるにあたり、小野子観音堂公民館で「小野子千手観音坐像開基七百年祭」が開催されました。

千手観音坐像の供養式が厳かに行われた後の式典では、千手観音坐像の保存等に関わる協力者に感謝状が贈られました。

七百年という長い時が経過した今もなお、修復等を施し、千手観音坐像が引き継がれていることに、地元町内会の役員からは「これからも自分たちが千手観音坐像を守り、少しでも多くの方に存在を知ってもらえるよう努力していかなければならないと改めて感じた」などと話が聞けました。



厳かに行われた千手観音坐像の供養式



さつまいも掘りに真剣なツアー参加者たち

花畑散策や収穫体験で下妻の秋を満喫

いいな！下妻ツアー2013

下妻の秋の魅力を紹介する「いいな！下妻ツアー2013」が10月6日に開かれ、災害時の相互応援協定を契機に市民交流を図る千葉県浦安市から13組35名の家族連れが下妻市を訪れました。

今回のツアーは、小貝川ふれあい公園の花畑で、赤紫や白、ピンクの花を咲かせたコスモスの花摘みや、砂沼広域公園の観桜苑周辺を散策した後、ピアスパークしもつまでは体験農園でさつまいも掘りを体験し、天然温泉でゆったりとくつろぎ、下妻の秋を満喫しました。

家族4人で参加し、さつまいも掘りを体験した小学6年生の女の子は「大きいのも、小さいのもたくさん採れた。お母さんとスイートポテトを作りたい」。60歳代の女性は「小ぶりなお芋は、ご飯を炊くとき一緒に入れると美味しいのよ」と笑顔で話してくれました。



山野草で秋を楽しむ来場者たち

自慢の山野草を展示

秋の山野草展

下妻市自然愛護協会が主催する「秋の山野草展」が9月27日から29日までの3日間、小貝川ふれあい公園ネイチャーセンターで開催されました。

協会では、春と秋の年2回、山野草展を開催しており、今回は会員17名が丹精込めて育てた山野草約300点を展示しました。黄色の花を咲かせるキイジョウロウホトトギスや、赤い実をつけたジュズサンゴ、秋の七草のひとつであるオミナエシなどの鉢植えに、訪れた大勢の市民などが熱心に見入っていました。

市内から友人と来場した60歳代の女性は「作っている人のやさしい気持ちと秋が伝わってくる感じ。華やかな園芸草よりも、心に染み入る感じがいいですね」と話してくれました。